



租稅要説

夫ノ可ハスル可カラス故ニ人民ハ各力ニ應シ
 テ成ル可ク相當ノ稅ヲ納ム以テ其費用ニ供ス
 ヘシカニ應スルトハ自家歳入ノ多少ニ從テ相
 應ノ稅ヲ納ムルヲ云フ其故ハ歳入ハ政府ノ保
 護アルガ爲メニ安全ニ業ヲ營ムコトヲ得其宜
 業工ヨリ生スル所ノ利益ノ積ニ成ルモノナレ
 ンヤ



114
A 1937

業工より主スル所ノ利益ノ蘇ヲ為シテハ十ノ
幾マシトシテ盡クニ安全ニ業ヲ營ムルコトヲ其當
業ノ所ニ際ムルニ至テ其為ハ為人ノ利益ノ利
ハシトシテ盡クニ自給爲ムルニ至テハ其
ニ為ル所ノ利益ノ蘇ヲ為シテハ十ノ幾マシトシテ
十ノ幾マシトシテ盡クニ安全ニ業ヲ營ムルコトヲ其當



租稅要說緒言

府縣會

實ニ明治十年七月ナリシカ今ヤ已ニ府縣ニ於
テ陸續其會ヲ開設セラレタリ豈美舉ト謂ハザ
ルヘケンヤ然ト雖モ議員ハ郡區人民ノ公選ス
ル所ニシテ而シテ地方稅ノ徵收及ヒ支辨法ヲ
議スルノ權利ヲ委任セラレタル者ナルカ故ニ
其影響直接ニ地方ノ盛衰ト民産ノ増減トニ及
及スルハ自然ノ勢ナリ是以テ議員タル者ハ最
モ重大ノ義務ヲ負擔スル者トスサレバ苟モ議

事ニ當テハ須ク丁寧反覆務メテ細論詳議セス
シハアルヘカラス且ツ租税ノ課法ニ至テハ本
則ハ唯一般ノ課目ヲ舉ケタルノミニシテ課額
ハ最高ノ制限ヲ斷定シ而モ之ヲ取舍スル等ノ
事ヲ許可セラレタルモノナルヲ以テ人民營業
ノ盛衰ハ皆議員ノ意ニ係ラサルナシ是故ニ若
シ徒ニ理論ノミニ拘據スル片ハ遂ニ課税ノ旨
趣ヲ誤ラサルナキヲ得ンヤ今夫我地方ノ議員
ニ於テハ幸ニシテ此ノ如キ弊害ノアルトナキ
ハ萬モ信シテ疑ハサル所ナレトモ數千ノ議員若

シ一人過テ此弊害ニ陷井ルモノアラハ唯一地
方人民ノ不幸ナルノミナラス其弊ヤ終ニ施テ
全國ニ及フモ亦未タ知ルヘカラス是余自ラ謫
劣ヲ諷レテ此舉アル所以ナリ。

明治十二年

今村忠成 識

租稅要說

總論

夫レ内ハ則チ衆庶ヲ撫シテ之ヲ堵ニ安ンセシ
 ノ外ハ則チ寇讎ニ備ヘテ其侮リヲ禦キ以テ邦
 國ヲ泰山ノ安キニ置クハ是政府ノ當ニ務ムル
 キ所ナリト雖モ要スルニ其事タル一モ國民ノ
 為メニナスニアラサルモノナケレハ苟モ國民
 タルモノハ以テ報キル所ヲ知ラス則チ可
 カラス然ハ則チ何ヲ以テ之ニ報キン政府ヲ維

明治十二年

今村武吉

持スルニ必要ナル所ノ租稅ヲ納ムヘキナリ而
ノ政府モ亦宜ク公平均一以テ之ヲ闔國ニ課シ
必ラス偏頗ナキヲ要スヘキナリ然レモ此言ヤ
固ヨリ業頭ノ論ナレハ結局實地ニ施行シ難キ
ナリ又租稅ハ國費ノ多少ニ隨テ各適當ノ割合
ニテ出スノ理アルヲ以テ人民若シ偏頗ノ賦課
ヲ蒙リタリト思惟スルキハ輒チ之ヲ訴ルノ權
アリト云說アレモ是レハ妄論ニシテ取ルニ足
ラサルナリ抑人民ノ力ニ應シテ偏頗ナク之ヲ
賦課セントスルハ固ヨリ以テ難キ事ニシテ何

レノ國ト雖モ真ニ公平ノ賦課ヲナシタルト
ルヲ聞カス亦無害ト租稅アルヲ聞カサルナリ
故ニ租稅ハ壹是ニ道理ノ元ヲ以テ徵收スルヲ
得ヘカラス唯務テ道理ニ近ツギテ其便法ヲ求
テ之ニ若カサルナリ今左ノ之ヲ畧說セ之抑保
護ノ點ヨリ論シ来レハ政府ハ國民ヲ為メニ其
人身財產及權理人ニツテ保護スルカ故ニ人民
ハ之ニ應當スル所ノ租稅ヲ納マス事ハアル
ヘカラス又政府ノ保護ヲ貳種ニ分テ一ヲ人身
及一人身上ノ權理ニ係ルモノヲ一ヲ財產上

ニ係ルモノトス而シテ之ニ賦税スルニハ人身
及人身上ノ權理ニ係ルモノニハ分頭税ヲ以テ
シ財産ニ係ルモノニハ財産税若クハ歳入税ヲ
以テスヘシ
人身上ノ保護料トシテ分頭税ヲ課サントニハ
貴賤貧富ノ別ナク人身ノ貴重ナルハ均ク皆
同一ナレハ其差別ナク均一ニ同額ノ税ヲ課ス
ヘキ筈ナレトモ瘵疾ノモノ及ヒ老幼婦女子ノ如
キニ至テハ尋常ノ男子ニ比スレハ更ニ大ナル保
護ヲ蒙ルルカ故ニ是等ノモノニハ別段ニ重税

ヲ課スヘキノ理アリ然レトモ實際ニ於テハ勞
課税スヘカラス況ヤ重税ヲヤ是レ以テ實地
理論ト相適ハサル所ナリ
夫レ財産ノ種類タル千差萬別計フルニ勝ヘス
ト雖モ之ヲ要スルモノハ水土ノ貳物ヨリ生ヤサ
ルハナシ然レトモ之レニ勞力ヲ施サレハ需用
ニ供スル能ハス又勞力アリト雖モ水土ナク
ハ之ヲ施スニ由ナシ故ニ水土ト勞力トハ恰カ
モ車ノ兩輪ノ如ク偏廢スル能ハス此ニ物アリ
テ始テ財産ヲ成爲スルヲ得ルナリ抑々吾人カ

今日生理スルヲ得ルハ能ク其勞カヲ施シテ夫
ノ天物ヲ活用スルヲ以テナリ譬ヘハ米穀ハ風
光温水ヨリ生殖スト雖ヒ人之レニ勞カヲ施サ
レハ食料ニ供スル能ハス故ニ一國ノ資本ハ
天物ハ固ヨリ勞カト熟練トニアルヲ知ルヘシ
是ヲ以テ政府ハ其勞カト練熟トヲ保護シ以テ
其結果ヲ完全ナラシムルヲ義務トス譬ヘハ農
夫辛苦ヲ費シテ終ニ秋實ヲ獲タルモ賊ノ為メ
ニ奪ハレ漁夫風雨ヲ冒シ辛シテ獲タル魚モ海
賊ニ掠ラルル其外職工ノ製品高賈ノ貨物亦然リ

然ルニ政府ハ人民ノ為メニ海ニ海軍ヲ置キ陸
ニ陸軍ヲ備フ此他警視司法等アリテ之ヲ保護
スルハ農夫漁夫職工商賈各々其勞カノ結果
ヲ全ウスルヲ得テ相共ニ利益ヲ獲ル是レ政府
ノ保護アルカ為メニ生スル所ノ歳入ナレハ其
歳入ノ多寡ニ從テ適當ニ其報ヲナサテハ叶フ
マシ是レ以テ財産ノ大小歳入ノ多寡ニ從テ課
税スヘシト言フ説ヲ起ル所ナリ然レモ一難
然レモ財産ノ價格ヲ計リ之ニ課税スルハ一難
事ニテ仮令貸賃ヨリ割合ヲ立テ定ムルモ時價

ヲ以テ定ムルモ鑒定人ヲ以テ定ムルモ畢竟正當ノ額ヲ計ルコト能ハサルナリ殊ニ抵當品及貸金免税ノ區別其他貸金証書ノ辨償スヘキヤ否等ヲ確定スルニ至テハ最難キナリ去トテ財産税ノ代リニ歳入ノ多少ニ付テ賦課セントスルモ尔不公平ハ免カレ難シ何トナレハ各人民ノ收入額ヲ計ルニハ帳簿ニ依リテ之ヲ計リ或ハ人民ノ申報スル所ヲ信シテ算スカ或ハ監定人ヲ撰ミテ之ヲ定ムルヨリ他ニ依ルヘキ策アラサレハナリ之ヲ要スル財産税ト云ヒ歳入

税ト云フモ其課額ヲ定メントニハ納税者ノ申報スル所ニ據ルカサモナクバ官吏ノ思考ニテ断定スルノ外ナカルヘシサレハ官吏ノ思考ニテ断定スルキハ壓制ヲ免カレ難ク極メテ苦情多カルヘシ又納税者ノ申報スル所ヲ信シテ定ムル所ハ良民ハ正當ノ賦課ヲ被ムリ奸民ハ課税ヲ免カルハニ至ルヘシ
論者曰ク子カ説ク所ノ如クナレハ租税ハ終ニ道理ヲ以テ徵收シ難シ果シテ然ラハ子ハ別ニ依ル所キモノナク官吏ノ自由自在ニテ兵ヲ率ヒテ

掠奪スルニ若カストスルカ答テ曰ク敢テ若カ
謂フニアラス故ニ前ニモ租税ハ道理ノミヲ以
テ徴收スルヲ得ヘカラス務テ道理ニ近ツキテ
便法ヲ求ムルニ若カスト言ヒシニ非スヤ余ハ
敢テ道理ヲ採ラスト言フニアラス成ル可ク道
理ニ依リ而メ其未タ據リ難キモノニ至テハ漸
次之レニ及ホスヘキヲ目途トス且便法トハ其
土地ノ慣習ニ依リ官民相共ニ便利ノ課法ヲ設
クルヲ云フ何トナレハ仮令何程ノ明法ニシテ
能ク道理ニ適フヘキモノト雖モ納税者ノ耳目

ニ新ラシク官吏モ亦徴收ニ習レサルハ苦情
多ク收集ノ費用モ尠ナカラサレハナリ好シヤ
法ハ少シク悪シキニモセヨ納税者ハ年々納税
ニ慣レ其何ノ理由タルヲ知ラス只管義務ト心
得テ自家ノ生計ノ費用ヲ節シ或ハ事業ニ勉勵
シテ之ヲ償ヒ或ハ物價ニ加ヘテ自用者ニ負ハ
シメ杯シテ之ヲ納ムヘク又自用者モ之レニ慣
レ習レテ知ラス識ラス之ヲ拂フ様ニ成リ行キ
政府モ亦徴收方ニ練達シ費用モ漸々減少ニ至
ルヘシ故ニ従来慣行ノ税ハ萬止ヲ得サルノ事

故アルニ非サレハ容易ニ變スヘカラス勉メテ
永ク將來ニ維持スルヲ緊要ナリトス何トナレ
ハ官民相共ニ收納ニ慣習スレハナリ是レ便法
ヲ求ムル所以ナリ是ヲ以テ課税ノ術ハ道理ヲ
目的トシテ而メ便法ヲ求ムルニ若カサルナリ
因テ此ニ課税ノ道理税種ノ大別及ヒ其性質ヲ
左ニ掲ケ以テ其得失ヲ畧説セントス
凡ソ政府ノ實費ニ供スヘキ定額ヲ越ユル程ノ
モノヲ徵收シ人民ヲシテ苦情ヲ鳴ラサシムル
カ如キハ施政ノ方法宜キヲ得サルニアラサレ

ハ則チ國法ノ備ラサルヨリ生スル所以シテ經
濟家ノ敢テ問フヘキ点ニアラス且税ノ事ヲ
論スルニモ徵收ノ額國費ヨリ越ユルヤ否ヤ政
府ニ於テモ正ク之ヲ費消スルヤ否ヤ等ハ亦宜
ク措テ問フヘカラス然ハ則チ何ヲ標的トシテ
之ヲ論スヘキカ租税ハ官民ノ財産上ニ如何ナ
ル影響ヲ来スヤヲ論究シ徵收ノ方法ハ如何ヤ
ト分析シ此ハ最モ益アルモノ此ハ益ナキモ害
少ナキモノト思考スル是ナリ凡ソ租税ノ利害
ヲ論スルニハ皆此趣意ニ據ルヘキナリ

賦稅均一ノ事ニハ亞當私密斯氏ノ箴言アリテ
近頃ハ歐米ノ博士モ皆此箴言ニ據テ均一ノ事
ヲ論セリ因テ此ニ亞當私密斯ノ小傳ヲ掲テ其
履歷ヲ示スト云

亞當私密斯ハ西曆一千七百二十三年ニ蘇各蘭
ノフヰフシエーヤトイヘル地ニ於テ生レ年十
四ニシテ同國「グラスゴー」ノ大學校ニ遊ヒ後又
「フクスフォールド」ノ大學校ニ學ビ二十五ニシテ
蘇各蘭ニ還リ家居スル「三歲」ニ擢テラレテ
文學ノ博士トナリ明年遷テ脩身學ノ博士トナ

ル四十ニシテ職ヲ辞シ「ブッコロ」ト侯ト共ニ
佛蘭西ニ遊ヒ諸名士ニ交リ大ニ學識ヲ廣メタ
リ就中經濟學ハ深ク其會心スル所ナリ且當時
佛人ハ富國ノ術ヲ學テ之ヲ一ノ學科トナサン
「ト」ヲ務ムルヲリカラナレハ恰モ好シ已ニ識力
アルノ私密斯之カ為ニ益ヲ添ヘタル「ト」少ナカ
ラサルナリ諸佛ニ遊フ三年ニシテ家ニ歸リ尚
ホ螢雪ノ業ヲ積ム十年遂ニ理學ノ蘊奧ヲ究メ
經濟ノ源理ニ貫通シタリ已ニシテ經濟學天門
學脩身學等ノ書ヲ著ハシケルヨリ戲價大ニ發

シ人之ヲ推テ經濟學ノ宗トス實ニ一千七百九十年ヲ以テ死ス享年六十七著ス所數書アリ人皆珍藏ス經濟學ヲ一ノ學科トナシタルモ氏カ力ノ致セシ所ナリ著書中國寶論ハ經濟學ノ基礎ヲ定メタル程ノ書ニシテ諸家尤モ之ヲ秘愛ス四歲ハ則其書ニ載スル所ナリ今譯シテ之ヲ左ニ錄シ併セテ之レカ注解ヲ為スト云

第一 歲

一凡ソ國アレハ政府ナクンハアル可カラス政府ヲ設置セントスレハ之ヲ維持スルノ費用

ナクンハアル可カラス故ニ人民ハ各力ニ應シテ成ル可ク相當ノ稅ヲ納メ以テ其費用ニ供スヘシ力ニ應スルトハ自家歳入ノ多少ニ從テ相應ノ稅ヲ納ムルヲ云フ其故ハ歳入ハ政府ノ保護アルカ為メニ安全ニ業ヲ營ムコトヲ得其營業上ヨリ生スル所ノ利益ノ積テ成ルモノナレハナリ

一凡ソ租稅ニ公平不公平ヲ生スルハ專ラ此歳言ヲ守ルト守ラサルトニ由レルナリ

本文ニ人民トアルハ何人ヲ指スニヤ察ス

ル所瘵疾老幼婦女子モ皆此中ニアルヘシ
何トナレハ瘵疾者ト雖モ富貴ナルモノア
リ老幼婦女子ト雖モ大ナル家産ヲ有スル
モノアレハ是等ノ者ニ限リテ免税スヘキ
謂レナケレハナリ
成ル可ク相當ノ税ヲ納ムヘシトハ蓋シ税
課ハ必ラス公平均一ヲ要スト云ハ所謂席
上論ニシテ到底實際ニ行ヒ難ク唯公平均
一ニ遠サカラヌヤウ務メテ之ニ接近セン
コトヲ欲スレハナラン

又人民カ租税ヲ出シテ政府ノ費用ニ供ス
ルハ譬ヘハ猶ホ衆人結社シテ一大地所ヲ
領シ其社員中ヨリ數人ヲ選拔シテ一切此
地所ニ付テノ事ヲ處置セシメ而テ此地所
ヨリ生スル所ノ利益ノ多少ニ從テ其手數
料ヲ拂フカコトシ

本大第 二 章 歲

一各人民ハ政府ニ租税ヲ納ムヘキ義務アルカ
故ニ政府ハ之レニ課スルニ公明確實ヲ旨ト
シテ誓テ專横ナルコトナキヲ要ス故ニ納税

ノ期日納税ノ手續并ニ賦課ノ割合等ハ明瞭
ニ納税者ニ指示スヘシ且他ノ人民ニモ廣ク
觸レ示スヲ緊要トス

本文公明確實ヲ旨トシテ誓テ專横ナルナ
キトハ公正ナル道理ニ基ツキテ正直ナル
官吏ヲシテ徴收セシムヘキヲ云フナラン
何トナレハ税官ノ隨意ニ徴收セラル、國
多ケレハナリ
納税ノ期日及ヒ手續等明カナラシメサレ
ハ知ラス識ラス期ヲ違ヒ犯則ニ陷井リ或

ハ營業ヲ妨クル等ノ弊アリテ却テ政府ヲ
怨望スルコトアリ又賦課ノ割合ヲ明知セ
シメサレハ税官ノ為メニ過多ノ税ヲ收メ
ラル、ノ弊害ヲ生スヘシ且他ノ人民ト雖
氏是等ノコトヲ知ラサルキハ課税ノ公不
公ヲ了知セサルカ故ニ徒ラニ苦情ヲ鳴ス
コトアルヘシ

第 三 章 歳 入

一凡ソ税ヲ收ムルニハ宜ク人民ノ之ヲ納ムル
ニ便利ナル方法ヲ以テ其都合好キ時日ニ於

テ為スヘキナリ
一 本文ハ譬ヘハ農夫カ秋ニ至リテ其果實ヲ
賣リテ金ヲ獲タル時或ハ漁夫カ魚ヲ賣リ
テ金ヲ得タル時等ニ方務メテ納稅者ノ集
マリ易キ市場ニテ税金ヲ收ムルヲ云フ如
クスルヲイフナラン
又間稅ノ如キハ費用者カ隨意ニ之ヲ拂ヒ
且其稅ヲ拂フト拂ハサルトハ費用者ノ隨
意ナルヲ以テ誠ニ便利ノ方法ト時日トニ
依リテ徵收スルモノトイフヘキカ

第 四 歲

一 凡ソ一切ノ稅ハ官庫ニ入ルモノ、外成ルヘ
ク收メサル様ノ策ヲ立ツヘシ
此四歲一タヒ世ニ出テヨリ議論鼎沸シケレ
氏夫ノ彌兒氏ハ之ヲ見テ租稅學ニ確タル條
理ヲ與ヘタリト言ヘリ又亞當私密斯ハ尚ホ
此四歲ニ反對シテ生スル所ノ弊害ヲ説カレ
タリ即左ノ四條是ナリ

第 一 條

一 租稅ヲ課收スルニ多クノ官吏ヲ使フキハ其

官吏ノ給料ノタメ多クノ税額ヲ費消スルコトアルヘシ是レ畢竟課收方法ノ宜シカラサルニ由ルナリ

第二條

一 濫リニ重税ヲ賦課スレハ盛大ノ事業モ衰微スヘシ例ヘハ馬車ニ重税ヲ課スルキハ馬車ノ價騰貴スルヲ以テ之レヲ使用スル者減少スルキハ馬車製造師モ止ヲ得ス廢業シテ他ノ職業ニ轉スヘシ

畢竟此弊ヲ来スハ施行家ノ矇昧ナルヨリ招

ク所ナリ

第三條

一 重税ヲ課スルキハ負擔ニ堪ヘサルヨリ脱税ヲ謀リ或ハ密賣ヲ謀ルモノアリサスレハ此弊ヲ防ク為メニ多クノ官吏ヲ用ヒサルヲ得サルヘシ

本文ノ如キ弊ハ往昔歐洲各國ニ多カリシカ方今ハ米國ニ多シトカ云

第四條

一 屢税官ヲシテ民家ヲ巡視セシメ人民厭フヘ

キ査問ヲナスキハ徒ニ人民ヲ悩マシムルノ
ミナラス其職業ヲ妨害シ或ハ家事ノ障碍ヲ
ナスコトアリテ却テ弊ヲ多カラシムルニ似タ
リ
左ニ掲クル所ノ一條ハ私密斯ノ説ニアラサレ
氏四歳ニ配シテ適當ナル説ナルヲ以テ之ヲ第
五條ニ置ク

第五條

一凡ソ格別ニ人民ノ利益ヲ害スヘキ如キ物品
ニハ務テ重税ヲ課スヘシ

按スルニ人民ノ利益ヲ害スル物品トハ例
ヘハ酒類烟草ノ如キ人ヲシテ悪習ニ誘道
シ或ハ健康ヲ害スル如キモノ又ハ奢侈物
等ハ固ヨリ必要品ニ非サルヲ以テ重税ヲ
課スヘシト言フナルヘシ然レ氏前ノ第貳
条ニ反對セル所アリ故ニ第二條馬車ニ課
税スル云々ノ所ト照合セ觀ルヘシ
右ニ掲クル所ノ私密斯ノ第四歳及ヒ他ノ數條
ハ各國政府カ課税工ニ試験シテ或ハ是トシ或
非トシ論議紛々タレ氏課税工ノ一大源理トシ

テ皆之レニ就キテ論スルモノナリ因テ稅務ニ
志アルモノハ深ク之レニ注意セスンハアルヘ
カラス

○直稅間稅區別ノ事

直稅トハ納稅者自己ノ歲入ヲ殺キテ出ス所ノ
稅ヲ云フ譬ハ地主ニ之ヲ賦課センニ地主自己
ノ歲入ヲ殺キテ地租ヲ納ムルカ如ク總テ直接
ニ納稅者ノ囊中ヨリ拂フヘキモノヲ云フ即財
產稅分頭稅地稅家稅ノ如キ是ナリ
間稅トハ納稅者ヨリ納ムレ氏其實ハ之ヲ他人

間稅トハ納稅者ヨリ納ムレ氏其實ハ之ヲ他人
ヨリ得テ全ク納稅者ノ拂ハサル稅ヲ云フ譬ハ
酒類稅ハ酒造人之ヲ納ムレ氏酒造人ハ更ニ酒
價ヲ増シテ自用人ヲシテ之ヲ拂ハシムル如ク
又烟草印紙稅ハ烟草商人之ヲ購求シテ貼用ス
レ氏烟草商人更ニ烟草ノ價格ヲ増シテ自用人
ヲシテ之ヲ拂ハシムルカ如ク總テ間接ニ納ム
ルモノヲ云フ即海關稅國產稅註解後物印紙稅
等ノ如キ是ナリ然レ氏此區別ハ固ヨリ租稅ノ
性質ニ就テ設ケタルニアラス只稅課ノ及フ所

二〇 因テ名ツケタルモノナレバ此ニ税ノ間ニ判
然ト區域ヲ立ツルハ何トナレハ土地ニ
課スルノ税ハ直税ニシテ其地主之ヲ納ムレモ
地主其税ヲ貸賃ニ増賦シテ借地人ヨリ之ヲ得
テ納ムルキハ間税ト變ス家税ノ如キモ直税ノ
部中ニ入ルレモ家賃ニ加ヘテ之ヲ借家人ヨリ
得テ納ムルキハ間税ト變ス又酒税ノ如キハ費
消人ニ賦課スヘキ目途ヲ以テ設クル税ニシテ
即チ間税ナレモ酒造家其利益ノ内ヲ以テ納税
シテ敢テ酒價ヲ騰貴セサルキハ直税ト變スル

等ナレハナリ故ニ税名ヲ以テ直間ノ區別ヲ立
ルハ到底為シ難タカルヘシ
直税間税ノ得失ニハ議論紛々タリト雖モ直税
ハ開化國ノ人民ニ課スルニ宜ク間税ハ未開化
國ノ人民ニ課スルニ宜シト云説先ク其得失ヲ
知り易キニ似タリ蓋シ直税ハ納税者ヲシテ明
ニ收額ヲ知ラシムルヲ以テ之ヲ間税ニ較フレ
ハ公平ニ賦課スルヲ得ヘク將タ人民ヲシテ益
勸勵ノ心ヲ起サシメ加フルニ收額ヲ豫算スル
ニ便ナリ又政府ニ於テモ人民ニ向テ明ニ其費

途ヲ知ラシムルヲ得且收集ノ費用モ少ナカ
ルヘシ又間税ハ直税ニ比スレハ不公平多ケレ
氏直税ノ如ク期月期日ニハ必ラス之ヲ納メサ
ルヲ得スト云カ如キトナク納税者ヲシテ識ラ
ス知ラス之ヲ出サシムルモノナルハ故ニ未開
ノ人民ニ限ラス開化ノ人民へ課スルハ惡シキ
トナケレハ誠ニ好税トイフヘキナリ畢竟人民
ヨリ政府ニ納ムル税金ハ其保護ヲ受クルカ為
ニ出ス所ナレハ恰モ物ヲ買フテ其代金ヲ拂フ
ト同シ筋ナルカ故ニ人民ニ於テモ其代價ヲ明

ラカニ知リ己レモ隨テ節檢スヘキハ當然ノト
ナリサレ氏兎角代價ヲモ定メス割合ノ貴キモ
厭ハス只少許ヲ出金シテ却テ高價ノモノヲ買
ハントスルノ僻アリ試ニ者ヨ今貧民ヨリ一ケ
年三圓ノ税ヲ收メシニ之ヲ間接ニ酒類税烟草
税等ヲ以テ收ムルト直接ニ分頭税又ハ財産税
ヲ以テ收ムルト孰レカ苦情少ナキヤ一杯ノ酒
一吹ノ烟草ハ誰カ之ニ税アルヲ顧ミルモノア
ラシヤ抑此課法タル納税者ハ吾レ知ラス之ヲ
納メ而モ其納ムルト納メサルトハ其課税品ヲ

買フト買ハサルトニアルナレハ若シ納稅者其
 稅ヲ避ケント欲スレハ其品其物ヲ購ハサルマ
 テノトナリ然ルニ直稅殊ニ分頭稅財產稅ノ如
 キハ納稅者直チニ自己ノ得益又ハ收額ノ内ヲ
 殺キテ納期ニ少シモ違ハサル様納メサルヲ得
 サルカ故ニ自カラ出金ヲ厭フノ念ヲ起シ稅吏
 ヲ懼ル、猶虎ヲ懼ル、カコトクニナリエクヲ
 以テ其響キ甚タ人望ニ係ルナリ是ニ由テ考フ
 レハ仮令直稅ハ公正ナルモ間稅ノ利便ナルニ
 ハ若カサルナリ尤モ稅法ハ土地ノ慣習事業ノ

盛衰等ニヨリテ各々法ヲ異ニスルモノナレハ
 決シテ同日ニハ論シ難ケレモ分頭稅ノ如キニ
 至テハ万モ止ラ得サルノ事故アルニ非サレハ
 課スヘカラサルモノトス

収入稅	得益稅	財產稅	給料稅	餉直稅	○直稅
凡ソ一歳賦課スル所	諸職業課スル人利	所有物ノ價額計	手間賃料等	土地家屋ノ借料	屬スルモノ大抵左ノ如シ

分頭稅

課人別ルニ賦

○間稅

ニ屬スルモノ大抵左ノ如シ

海關稅

輸課入輸出品ニ

印紙稅

諸證書等ニ其課スル書類

郵便稅

諸文通稅ニ賦

國產稅

即酒類ニ茶稅烟草稅砂糖稅等ニ此中尤モ營業稅犬稅車稅ノ如キモ

郵便稅

ハ尋常ノ租稅ト其性質ヲ異ニスレ

凡間稅

ノ部ニ編入シタル書アルヲ以テ茲

ニ掲ク

蓋シ其由來スル所ハ後ニ記スヘシ

○海關稅ノ事

海關稅ハ輸出入品ニ課スルノ稅ニシテ外交通

商ノ旺盛ナル國ニ於テハ此稅ヲ以テ大ニ國費

ヲ償フト云フ蓋シ此稅ハ其輕重ニ因テ國家ノ

盛衰ニ影響ヲ及ホスヲ以テ愛國者ハ甚ク心配

ヲナスナリ故ニ自由貿易ト雖モ保護政策ト雖

モ一國ノ財政ヲ論スルニ至ラハ皆此ニ注目シ

テ互ニ討論止マサルナリ方今本邦ニテモ學術

進歩シタルカ為メニ議論頻ニシテ或ハ甲ヲ是

トシ或ハ乙ヲ是トスレトモ能ク開港ヨリシテ

今日ニ迄ルマテノ形勢ヲ觀ハ保護政策ノ益アル辨ヲ費サステ明白ナリ今斯編ハ專ラ稅課ノ性質ヲ指示セント欲スル精神ナレハ本邦ノ事跡ハ暫ク他日ニ釀リ先ツ左ニ兩稅ノ得失ヲ說カントス夫レ百工已ニ興リ物産已ニ開ケ資本已ニ増殖シ能ク他國ノ市場ヲ壓倒シ專賣獨業ノ利ヲ占ムルノ力アリテ自由貿易ヲ行フヲ得ル國ト雖モ必ス利スル所アリトハ信シ難シ況ンヤ百工未タ興ラス物産未タ開ケス資本漸ク減少シ内地ノ市場スラ他國ノ人ニ侵略セラ

レテ殆ト專賣ノ權ヲ奪ハルモ之ト競争スヘキカナキ國ニ於テヲヤ者ヨヤ米國政府カ保護政策ヲ設ケテヨリ而來其進歩セル景況ヲ彼レ乃チ内國ノ諸業ヲ勸勵センカ為メ英國ヨリ輸入スル物品ニ貳割五分ヨリ三割ノ保護稅ヲ課シテ美果ヲ得タリ其他魯西亞政府ノ鐵條佛蘭西政府ノ甜菜ビートノ如キ其國ニ利益ヲ與ヘタルト歴々觀ルヘキナリ殊ニ印度ニ移任セル英人ヲ見ヨ均ク英國ノ管下ニ生レタル人ト雖モ既ニ已レノ生國ヲ立去テ其移住シタル地方ヲ以テ

墳墓ノ地ト定ムルハ其保護税ノ旨趣ニ從ヒ
彼ノ「マンチスト」英國有名ノ綿布製造ノ綿布
其他ノ物産ニ輸入税ヲ課シ己カ移住地ノ生産
ヲ保護スル_一ヲ謀ルニアラヌヤ夫レ何業タリ
トモ新タニ之ヲ開カントスルハ必ス先ツ政
府ノ保護ヲ待タサルヲ得サルコト猶ホ嬰兒ノ
成長スルニ及フマテ父母ノ鞠育ヲ待タサルヲ
得サルカコトク政府ノ保護ナクンハ其業ヲ盛
大ナラシムル_一能ハサルモノナリ本邦ノ如キ
ハ今日ニ在テハ又未タ嬰兒タルヲ免カレザル

ハシ
或人曰ク本邦ノ海關稅ハ嘉永年間米國トノ和
親貿易ノ條約ヨリ起レリト余ハ曰フ然ラス蓋
シ元龜天正ノ頃長崎ニハ已ニ港運上トイフモ
ノアリタリサレトモ其方法ハ現今ノ海關稅ト
ハ全ク異ナルカ故ニ我人民ガ海關稅ニ付テ少
シク其性質ヲ知得タルハ實ニ近年ノ_一ナレハ
此事務ニ關スル者ノ外ハ其利害ヲ顧ミサルモ
尠深ク責ムルニ足ラサルナリ又歐州ニテ此稅
ノ起リタルハ紀元前一千六百年代ニ雅典人外

國ヨリ輸入シタル穀類及商貨ニ百分ノ五ヲ課
シ又其國ヨリ亞細亞知加ニ輸出セル種々ノ品類ニ
モ之ヲ課シタルト是レ其濫觴ナリ尔後羅馬國
ノ盛ナル頃ニハ此稅ヲ以テ大ニ國費ヲ助ケタ
リトイヘリ又英國ニテハ一千零六十六年前ノ
頃既ニ此稅アリシト云フ

海關稅ニハ二種ノ課法アリ即チ從價稅定額稅
是ナリ此外ニ「¹」ニユルト云課法アリ此レハ例
ヘハ毛布類ニテ一尺四方壹圓以上ノ價アレハ
即チ壹圓以下ト其價ヲ荷物送狀ニ記載シ荷主

ニ於テ之ニ誓證ヲ付スルモハ始テ真ニ壹圓ノ
價アリトシテ課スル稅ナリ是レ尋常ノ課稅方
法ヨリ一層重ク賦課スルノ理ナレハ保護政策
ニハ最モ宜キ課法ナリ抑、此法ヲ發明シタルモ
ハ米國南カロライナ州ノロウンズトイフ
人ナリ政府此法ヲ採用シテヨリ大ニ輸入ヲ防
キ内國ノ製造ニ進歩ヲ與ヘタリ因テ嚮ニ綿製
造場ノ衰頽シタリシモ大ニ面目ヲ改テ更ニ旺
盛ナラシメタリサリナカラ多クハ從價定額ノ
二稅ヲ用フルナリ諸テ從價稅トハ荷物送狀ニ

其物品ノ代價ヲ記シ荷主ヲシテ之ニ誓證セシ
メ其代價ニ從テ課スル税ナリ例ヘハ代價ノ百
分ノ十百分ノ五トイフカ如キナリ定額税トハ
一磅ポンド我百二十一頌ト我二百七十四二貫一碼ヤ我三
尺一分トイフカ如ク尺度介量ニ付テ課スル税
ナリサレバ從價税ハ荷物送狀ニ物價ヲ記シ荷
主ヲシテ之ニ誓證セシムルヲ以テ決シテ詐偽
ナリ正當ノ賦課ヲ為シ得ヘキ道理ナレハ奸商
ハ往々真偽ニ様ノ送狀ヲ製シ豫メ船主ニ此事
ヲ談シ置キ先ツ税関ニハ偽書ヲ呈シ船主ニハ

潛ニ真書ヲ付托スル等ノ手術ヲナシテ脱税セ
ントスルヲアリ斯ル所為ノ為ニ政府ノ歳入ニ
損耗ヲ生スルヲ歎カラサルナリ尤モ此弊害ヲ
防カン為ニ豫テ監定人ヲ置テ諸物價ノ鑑定ヲ
為サシムレハ許多ノ物品中ニハ間、謬見アリテ
損耗スルヲアリ是レ一ノ弊害ナリ
從價税ハ他ノ方法ヨリハ公平ナルカ如ク見ユ
レハ資本ノ額ヲ以テ税額ノ割合ニ比スレハ時
トシテハ却テ不公平ヲ生スルヲアリ何トナレ
ハ茲ニ靴製造人貳人アラシニ甲乙均ク千圓ノ

資本ヲ以テ各靴千足ヲ製スルニ甲ハ千貳百圓
ニ當ルノ品ヲ造リ乙ハ己カ勉勵乃至ハ省力ノ
器械ヲ用テ千五百圓ニ當ルノ品ヲ造リタラン
ニ均ク之ニ二割ノ稅ヲ課スルキハ甲ハ貳百四
十圓ヲ負ヒ乙ハ三百圓ヲ負フヘシサスレハ甲
乙共ニ同額ノ資本ヲ以テ此業ヲ營ムナレヒ乙
ハ甲ヨリ六十圓多ク納稅スルツ理ナレハ折角
勉勵乃至ハ省力ノ器械ヲ用テ乙ヨリモ多ク三
百圓ノ利益ヲ得レヒ其二割ヲ收メラル、キハ
當ニ不公平ヲ生スルノミナラス又勉勵ノ志ヲ

挫カシムルニ似タリ
定額稅ヲ課スルニハ品質ノ美惡ニ從テ輕重ヲ
設ケサレハ大ニ不公平ヲ生スルコトアリ何トナ
レハ富メル者ハ上等ノ品ヲ用ヒ貧シキ者ハ下
等ノ品ヲ用フルハ通例ナレハナリ然ルニ若シ
上下ノ等差ヲ設ケサレハ貧富均ク同額ノ稅ヲ
負フコトナルナリ譬ヘハ富者カ壹圓ヲ負フハ
敢テ重稅トモ思ハザルヘケレヒ貧者ニ在テハ
恐ラクハ堪ヘサルヘシ又元來定額稅ノ割合ヲ
定ムルニハ時價ニ從テ從價稅ト同シ割合ヲ以

テスルカ故ニ其課法ハ從價稅ト異ナレ其課
額ハ同シ割合トナルナリ故ニ從價稅ヲ以テス
ルモ定額稅ヲ以テスルモ課額ニハ曾テ異ナル
トナキラ知ルヘシ然レモ一旦已ニ稅ヲ定メタ
ル後永ク之ヲ續カシムル片ハ其間タニハ物價
ニ高低アルカ故ニ終ニハ必ラス不公平ヲ生ス
ヘシ然ルニ從價稅ハ仮令何程高低ヲ生スルモ
常ニ物價ト共ニ高低スルヲ以テ此ニ差響キア
ルトナシ是故ニ定額稅ヲ行フナラバ宜ク物價
ノ貴賤ヲ平均シ以テ其中ヲ取りテ之ガ改正ヲ

ナサ、ルヘカラス
○印紙稅ノ事

印紙稅トハ諸證書類ニ貼用スヘキヤウ一片紙
ニ稅額ヲ印シタルモノヲ貼セシメテ收ムル所
ヨリ此稅名ヲ設ケタリ抑此稅ハ諸證文銀行手
形營業免許等ノ如キ其契約ヲ公認スルノ確證
トナスノ名アリト雖モ其實ハ收稅上ヨリ起ル
モノトス且其稅金ハ證書ヲ出ス方ヨリ拂ハシ
ムルナリ而モ無印紙ノモノハ公證トナラサル
モノトシテ裁判上ニ之ヲ受理セスト言フヲ以

テ脱税ヲ豫防スルノ方法ナレハ收税上頗ル便
法ト謂フヘキナリ尤モ他ノ間税トハ大ニ其性
質ヲ異ニシ課税ノ落着スル所一様ナラサルナ
リ何トナレハ證書ノ種類ニ因テ或ハ利益ヲ殺
キ或ハ資本ヲ割テ拂フモノアレハナリサレ氏
賣物即烟草香具料等ノ如キモノニ貼用セシム
ルモノハ最モ能ク間税ノ旨趣ニ違ヘルナリ
抑モ印紙税ノ濫觴ヲ原スルニ昔時和蘭猶ホ士
遣ノ属國タリシ頃ニ何卒其羈絆ヲ脱レ獨立セ
ント舉國ノ人民一致シテ軍ヲ起シ士國ト奮戦

シタリシニ奈セン和蘭軍資ニ乏シク尋常施ス
所ノ課税ノミニテハ中々足ラス頗フル支給ニ
困ミ終ニ全國ニ令シテ此危急ヲ救フノ良策ヲ
献スルモノアラハ莫大ノ恩賞ヲ與ヘント告タ
ル程ニ衆人先ヲ争フテ種々良策ヲ献ス然ルニ
此印紙税献策中第一等ナリケレハ政府之ヲ採
用シテ實地ニ施行シタルナリ是實ニ一千六百
二十四年ノトナリキ
和蘭政府此方法ヲ採用シテ我内國ニ施行シタ
リシヨリ各國政府モ其便法ナルヲ知りテ追々

諸方ニ行ハレ終ニハ歐洲一般之ヲ用フルト
ナレリ英國ニテ此税法ヲ採用シタルハ一千六
百七十一年ノトナリ其始テ施行スル時ニ方テ
年限ヲ九年ト定メタリシカトモ又三年ヲ延期
シ其後終ニ永世施行スルトナレリ凡ソ何種
ノ税ニテモ初メハ年限ヲ定ムレ氏イッモ其定
限ノ如ク行ナハレタルモノアルヲ見ス大抵ハ
延期スルカ或ハ終ニ永世施行スルトナルナ
リ

○國産税ノ事